

図書返却ポストの増設を

答 役場、ハピネスに設置を検討



南里 正秀 議員

問 平成19年度文部科学省の「子ども読書の街」に指定され、同年度開館した町立図書館を中心とした読書活動が推進されている。貸出数の推移は。

答 社会教育課長 28年11月から貸出数を10冊から15冊に拡大する等の利便性の向上を図った結果、貸出率がアップしている。

問 誰もが等しく図書館サービスを受けられる取組は。

答 課長 町立保育園への配本、園内での活用や保護者への貸出を実施。

また、地域文庫支援事業として、老人福祉センター、コミュニティ運営協議会、公民館などに団体貸出を行っており、今後も増やしていく。

問 図書の宅配サービスや移動図書館を導入している自治体もあるが。

答 課長 財政面からも新たな経費負担は厳しい状況。

問 本の返却ポストを増設すると利便性が向上するのでは。

答 課長 返却の督促数が減る効果も期待できるため、役場やハピネスへの増設を検討したい。

問 「第2次子ども読書活動推進計画」の課題は。

答 課長 学校、保育所の読書活動が伸びている反面、家庭や地域での活動が停滞している。

問 学校図書館の蔵書は十分か。

答 学校教育課長 学校図書標準を平均約45%上回っている。

問 学校図書館を地域に開放する考えは。

答 課長 古賀市など

先進自治体の事例を参考に研究したい。

問 在宅高齢者と子どもたちの交流を目的とした「学校図書宅配サービス」を学校や子どもにも無理のない範囲で実施できないか。

答 教育長 近所のお年寄り子どもたちの絆が深まる大切な取組だが、安全確保のため難しい。

問 宇美町出身の作家山口幸三郎氏原作のドラマが放映されている。

山口氏をはじめ宇美町出身の著名人を応援し、PRしていけば、ご本人達の励みにもなり、町のイメージアップや地域の活性化につながるのでは。

答 町長 山口氏のみならず、プロ野球界、陸上競技、スケート競技等当町出身の方々に応援していきたい。

また、29年度は著名人を対象とした観光大使事業も始め、町制100周年に向けての契機としたい。



開館10周年の町立図書館



藤木 匠 議員

2町(宇美・志免)の合併は

答 将来的には可能性がある

問 過去に糟屋南部3町(宇美・志免・須恵)、中南部6町(宇美・志免・須恵・粕屋・篠栗・久山)の合併が協議されたが、実現できなかった経緯は。

答 政策経営課長 南部3町では、平成15年に合併問題任意協議会が設立され、シンポジウムや住民説明会も開催された。

最終的には糟屋中部との枠組みも考慮する必要がありとの意見が出され、法定協議会の設置を断念。

その後、福岡県市町村合併推進構想に基づき、中南部6町の合併について協議が行われた。

最終的には、各町議会で合併協議会設置議案の採決が行われ、4町が可決、2町が否決。否決2町の再提案がなされなかったため白紙の状況となっている。

問 宇美町と志免町は、宇美川の上流、下流域といった関係以外にも古くから密接な関係がある。

答 町長 宇美町と志免町の合併については、将来的には可能性が十分あるものの、現時点では非常に困難と思っている。

平成32年10月町制施行100周年に向けての歴史や文化、自然環境を生かした取組、29年4月から始まる校区コミュニティを核とした持続可能な地域を形成する施策推進などの充実を図ることが、先行する課題。

将来を見据え、住民へ都市部から自然豊かな山間部まで幅広い住環境を提供して、住みよいまち、住んでよかったと言われるまちづくりが必要では。

問 リサイクルセンターやし尿処理など両町が共同で実施している事業もあり、合併により住民サービスが向上するなどメリットも多い。

答 町長 20年30年後の社会情勢は予測できないが、将来的には可能性が十分あるものの、現時点では非常に困難と思っている。

今までのまちづくりが継承されるのかといった不安感も招きかねないが、将来を見据えた合併を視野に入れるべきでは。

ないが、両町とも非常に長い歴史を有する自治体であり、結びつきも非常に強固なところがある。

地域コミュニティの形成、100周年事業を町として完成させた後、2町の合併も取り上げる課題だと考えている。

議会や町民の皆様の見解等も十分参酌しながら、今後取り組んでいきたい。



井野山から望む宇美川